

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会「第14回子育て支援部会」議事録

日時 平成30年8月31日(木) 午後3:30～

場所 麻績村地域交流センター 2F 第3,4研修室

参加者 ・教育委員 塚原明水委員 ・教育委員 坂野かほり委員
・子育て支援担当保健師 升田久美子委員
・筑北中学校特別支援コーディネーター 峯村学委員
・麻績小学校特別支援コーディネーター 田中真由美委員
・麻績保育園保育士 滝澤玲子委員(欠席) ・住民課長 森山正一委員
・ひだまり担当職員 清水智香子委員(欠席) ・教育長 飯森力委員
・子育て支援コーディネーター 塩家正和委員 ・教育委員会職員 尾和正行委員

傍聴者 1名

事務局 : 定刻となりました。麻績村の教育方針に関する研究検討委員会、第14回子育て支援部会を始めさせていただきます。この会につきましては、個人情報を多く取り扱いますので、知り得た情報の取扱いについてご注意いただきたいと思っております。それでは部会長より挨拶をいただきます。お願いいたします。

委員 : 前回から約2か月ぶりの会となります。秋の行事等で大変お忙しい中とは思いますが、よろしくお願いいたします。今回は前回に続きキッズサポートカードについてと今後どのようなことについて検討していくべきかのご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

事務局 : それでは、議事に入ります。ここからの進行につきましては、部会長お願いいたします。

委員 : (1) 会議録の確認についてお願いします。

事務局 : 会議録の確認につきまして、すでに前回会議の会議録を配布させていただいております。公表するにあたりまして、個人が特定される情報を伏せさせていただき、ホームページにて公表していきたいと思っております。内容につきまして、問題等がございましたら事務局までご連絡いただくか、ご指摘いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員 : 会議録について、何かお気づきの点がございましたらご指摘いただきたいと思いますが、ございますか。無いようでありますので、先に進ませていただきます。

(2) 教育相談の現状についてということで7月、8月までについて事務局から説明をお願いします。

事務局：よろしくお願ひいたします。麻績村相談体制の資料をご覧ください。関係機関について大きな変更等はございません。相談件数につきましては、前回の報告以降に新たな相談はございません。継続的な相談のみとなります。相談件数につきましては、資料のとおりです。7月、8月は夏休みに入っていましたので、大きな変化や相談等はございませんでした。

その他に2点、新たな情報がございますので、お伝えいたします。1点目は、7月30日に塩筑北部コーディネーター研修会で「はぐルッポ」の視察に行かせていただきました。子どもたちがしたいことをしており、のびのびしているような印象を受けました。特別支援学級の生活単元授業のようなことを行って、皆で季節の行事をしたり、そこに信州大学の学生さんが入ったりし、子どもたちがしたいことを自分たちで決定して、周りの大人はそれをサポートするといった場所でした。今後、色んな関わりを持つことが考えられますので、また見学する機会があればしていきたいと思いました。もう1点は、7月の小学校のキッズサポート会議の中でお知らせしたい点がございましたので、報告いたします。子どもの宿題についてです。「なかなか宿題ができない」、「家庭で困っている」ということが担任から話がありました。それについて、「宿題の量が適切なのか」、「宿題の内容が子どもに合ったものなのか」という指摘がOTからありました。学習についてのリーフレットが保育園・学校部会で作成されていますが、その中には「宿題の量」についての明記はございませんので、保育園・学校部会や学校とも連携しながら「宿題の量、内容が子どもにあったもの」を考える必要があると感じました。一人ひとりに合わせるというのは難しいと思いますので、宿題についてはいくつか用意した内から選ぶなどといったことも考える必要があるのかと感じました。以上で、説明を終わります。

委員：ご意見ご質問等ございましたらお願いします。夏休み明けに子どもの自殺が多いという話を聞きます。休みが長くなってしまうと登校しなくなるという問題が出るようですが、学校の方ではどうですか。

委員：あまりそういうことは無いです。夏休み明けから9月の運動会に向けて慌ただしく準備をしていきますので、子どもも追われるように頑張っています。

委員：教育相談の現状について、その他にご意見等ございますか。無いようですので、先に進みます。(3)キッズサポートカードについてになります。それでは、事務局説明をお願いします。

事務局：キッズサポートカードについて説明させていただきます。皆さんからご意見をいただきまして、今まで6枚あったキッズサポートカードを精査し、作成したものを資料として配布させていただきました。個別の支援計画が2枚、個別の指導計画が1枚になります。

前回からの変更点ですが、「成長の記録」についての欄を増やさせていただきます。

まして、複数書くことができるようにしました。また、「支援会議の経過があった方がいい」という意見がございましたので、「関係機関との連携」という項目を入れさせていただきます。ここに、どこで、どのようなことを誰とつながりを持ったということを記入すれば支援会議の経過が分かり、支援のつながりで図に表わせるといいと考えました。次に、「特徴・特性」の欄ですが、新たに「就園前」という欄を増やしております。また、ご意見いただきたい点として、願いの中の「担当の願い」ですが、担当は替わっていきますので、特徴・特性の中に入れて、それぞれに記入できるようにした方がいいのか、ご意見をいただきたいと思います。

委員：それでは「個別の支援計画」についてのご意見をいただきたいと思います。

委員：「関係機関との連携」で経過を書くことができ、支援のつながりで図にできるので分かりやすいと思います。

委員：願いの部分についてご意見いただけますか。

委員：年代で願いが変わってきますので、それぞれに「願い」を書くことができた方がいいと思います。この支援計画については、継続して使用するのですか。

事務局：継続して使うように考えています

委員：小学校は特に6年間と長いので、どのように考えたらいいでしょうか。

事務局：小学校は6年間で、なかなか難しいところがあると思いますが、支援計画の大事なところは今までのつながりがどうなっているかというところだと思いますので、細かい部分は指導計画の中で示してもらい、ここでは大まかにその子の特徴等を記入してもらえればと思っています。

委員：「願い」は、どのように考えますか。

事務局：私も、作成しながら「願い」は各年代であった方がいいと思いながら作成していました。

委員：それぞれに願いはあった方がいいと思います。

教育長：就園前、保育園、小学校、中学校の各年代で1枚ずつにするのはどうですか。キッズサポートカードは就園前から記入するということですが、初回作成者は「ひだまり広場」や「保健師」になるのですか。

事務局：就園前については、保健師ということで前回確認させていただきました。

委員：未就園の時に病院をおすすめして診断が出る方もいらっしゃいます。また、経過をみる中で保育園の時に対象者となれば保育園が初回作成者になると思います。

事務局：今、話を聞いていて「1枚ずつでもいい」と感じました。それでは、個別の支援計画につきましては、1枚目と2枚目で分けて、「特徴・特性」については就園前、保育園、小学校、中学校とそれぞれに作成し、ファイリングするときには5枚となるように個別の支援計画を作成しようと思いますので、よろしくお

願いいたします。

委員：個別の支援計画について、その他にご意見ございますか。

委員：高校に入るまでということよろしいですか。

事務局：本来であれば高校以降もあるべきだと思いますが、一応、今の段階では中学校までとしたいと思っています。

委員：情報が入ることもありますので、中学校の後に「その後」というような項目があってもいいとは思いました。

事務局：それでは、中学校の後に「その後」ということで情報が入ることもあるかと思しますので、入れていきたいと思えます。

委員：その他にご意見等よろしいでしょうか。それでは、個別の支援計画については以上として、個別の指導計画について事務局から説明をお願いします。

事務局：それでは、キッズサポートカード（個別の指導計画）について説明させていただきます。それぞれの項目の中に具体的な内容があった方がいいという意見がありましたので、私の方で考えて入れさせていただきました。基本的な生活習慣のところは「排泄、食事、着衣」。集団行動対人関係には、具体的なものが出てきませんでした。ご意見があればお願いしたいと思えます。学習のところでは、「遊び、言語、文字、数量、指示理解」を入れました。運動については、保育園のところで「運動は難しい」という意見がありましたので、「体の使い方」という項を入れてみました。その他について変更点はございませんが、前回から間が空きましたので、お気づきの点がありましたらご意見いただきたいと思えます。

委員：それでは、このことについてご意見ございますか。

委員：基本的な生活習慣のところですが、「睡眠」があってもいいのかと思いましたが、どうでしょうか。もう 1 点、学習のところに「遊び」とありますが、これは学校での遊び時間のことでしょうか。

事務局：私のイメージは、「未就園での遊びの中の関わり方」で考えました。

委員：その他にご意見ございましたらお願いします。各施設によって、記入し難い項目もありますが、その辺はどうしますか。

事務局：それでは、個別の指導計画について、形式としてはこのような形でよろしいでしょうか。

全 員：(承認)

委員：内容に関しては、それぞれのところで考えて記入するということがよろしいですか。

事務局：はい。それでは、キッズサポートカードとして「個別の支援計画」と「個別の指導計画」について検討していただきましたが、「個別の支援計画」については新たなものを作成して、皆さんに見ていただき進めていきたいと思えます。

「こちらで決定したものを進めていい」というように確認が取れておりますので、次回までで完成したいと考えております。今の未就園については、この形式で保健師と一緒に作成を進めていきたいと考えております。

今、現在多くの子どもたちがキッズサポートカードを作成しておりますが、この子たちについてどのように移行していくべきかを皆さんにご意見いただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

委員 : それでは、ご意見ございますか。今あるものを写すというのは難しいですか。

事務局 : 形式が違うので、なかなか難しいと思ひます。

委員 : 学校の先生方と共通理解した上でしていかないと先生方としては負担にだけ感じてしまうと思ひます。以前のものより大分楽になったと思ひますので、ある程度分担して移行していければいいと思ひます。

委員 : その他にご意見いただけますか。

委員 : 新規で作成する方は、今回新たに変更したもので作成するというのはどうですか。

教育長 : 今あるものも残しつつ、新たなものを作成していくというのでいいと思ひます。前の情報も見れるので、その方がいいと思ひます。先生方で分担するのは難しいと思ひます。

事務局 : 私も、初めは「作業日を決めて分担してやろう」と思ひたのですが、個人情報ですので、分かった人間が一人で作った方がいいと感じていました。ここで了解いただけるなら、新規の子については新しい様式で進めていくということにしたいと思ひます。個別の支援計画については、どの程度の共通理解で進めていきますか。

委員 : 学校で、夏休み中に全て記入していただくようお願いしてあります。折角新しいものができましたので、新しい様式にどんどん移行していった方がいいと思ひます。来年度からは、完全に新しいもので進めていくとした方がいいと思ひますので、時間があるようでしたら移行してもらった方がいいと思ひます。新しい様式では2枚で済むので、その方がいいのかと思ひます。

教育長 : キッズサポートカードは紙ベースでの作成ですか。

事務局 : 今までのキッズサポートカードの作成自体はデータでしたので、今回のものについてもデータでの作成を考えています。

教育長 : 平成32年度頃に校務システムの関係で動きがあるので、先生が異動した後にすぐに対応できるようにできるだけ統一したデータでシステム上に入れて、システムが替わった時に変換できるようにしていただいた方が後々いいと思ひますので、その辺を踏まえていただければと思ひます。

事務局 : 基本的に、全てエクセルで様式を作成してありますので、問題ないと思ひます。

委員 : 1点、確認させていただきたいのですが、保護者のサインや印をもらう必要があるものは紙ベースになると思いますが、その辺はどうなりますか。

事務局 : 先ほど意見が出たように、就園前、保育園、小学校、中学校とそれぞれで打ち出して、それに署名してもらうようにすればいいと思います。

委員 : それでは、色んなご意見をいただきましたので、事務局で作成したもので皆さんには動き出していただきますが、来年度からこの形で全員が使っていけるようになると思います。

それでは、(4) 次回検討事項について事務局お願いします。

事務局 : 次回の検討事項ではありませんが、確認したいことを2点お願いします。キッズサポートカードの次に議題としていました「エントリーシート」についてになりますが、中信教育事務所に確認してみまして、「できれば県の様式を使ってほしい」という回答をいただきました。「なかなか書きにくい部分もあるかと思うが、書ける部分を記入して提出してほしい」ということでしたので、エントリーシートについては、麻績村独自でなく、県のもので作成していただきたいと思います。

個別の支援計画については、「全ての子どもについて作成になるのではないか」ということでしたが、確認したところ「全ての子どもとなると大変なので、個別の支援計画が必要であると判断した子どもと保護者等から『作成してほしい』という依頼があった子どもに対して作成をする」という回答をいただきましたので、皆さんにお知らせいたします。

委員 : 今報告いただいたことを文書でいただければ、先生方にも伝わりやすいと思いますので、お願いいたします。また、保護者に見せるのか、見せないのか等の内容についても統一したもので提示した方がいいと思います。

委員 : 文書だけでは分かりにくいということになれば、事務局が直接説明するということもできると思いますので、その辺も踏まえてよろしくお願いします。

事務局 : それでは、ここで決まったことを各施設にお伝えしていきたいと思います。

委員 : 今後の検討課題として何点かご意見をいただきまして、放課後における子どもの健全育成対策の検討ということで放課後児童クラブ、放課後子ども教室、おみっこ元気くらぶ。また、特別支援関係のこと。そして、ボランティア等による指導者確保の対策として、昔の遊びの会の皆さんに頑張っていたいるが、年齢も上がってきておりますので、コミュニティスクールへの協力体制等も検討していただければありがたいと考えております。

それでは、閉会をお願いします。

委員 : 以上で、麻績村の教育方針に関する研究検討委員会「第14回子育て支援部会」を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。